

# 平成21年度 学力定着度調査の結果と公表

品川区立大間窪小学校  
校長 橋本 茂樹

品川区では、平成18年度より小・中学校がお互いのよさを生かすための1つの仕組みとして、9年間を見通して系統的な教育活動を実現する小中一貫教育を進めています。小中一貫教育は、義務教育9年間でひとまとまりとしてとらえた上で1～4年生では基礎・基本の徹底、5～7年生では、できるだけ自分の学び方にあった方法でさらなる基礎・基本の定着、8・9年では教科、内容の選択幅を増やし、生徒の個性・能力の伸長をめざして教育課程を「4 - 3 - 2」の3つのステージで構成しています。

そこで、平成18年度からは、4年生及び7年生を対象に国語と算数についての学力定着度調査を実施しています。本年は2月23日に実施しました。この学力定着度調査では、調査結果を受けて継続して取り組むことや改善すべき指導方法などを明らかにし、今後の指導に役立て、基礎的な学力の一層の定着を図ることを目的としたものです。

本校では下記の内容で結果等について公表します。学力定着度調査結果や今後の改善・対策等を保護者、区民の皆様に公表することで学校としての態度を表明し、説明責任を果たしていきます。ぜひご覧くださいませようご案内申し上げます。

なお、品川区の学力定着度調査のねらい、品川区の全体的な傾向などについては、品川区教育委員会のホームページに掲載してあります。本校ホームページと合わせてご覧ください。

## <本校の公開内容>

- 1 結果の概要
- 2 結果の分析と解説
- 3 結果から明らかとなった課題
- 4 今後の改善・対策
- 5 学力の検証方法

# 平成21年度 品川区学力定着度調査の結果について

## 学力定着度調査結果の大間窪小学校としての受け止め

品川区の習熟基準と本校の児童の正答率を比較することによって、本校児童の国語科・算数科の学力定着度を把握し、更に分析することによって本校児童の学力の特徴をつかみます。

その結果に基づき、単元の指導計画や指導法・指導形態、及び教材教具の工夫、学習環境を整える等々、教育活動全体の中で学力向上のための具体的な手だてを講じていきます。

学力定着度調査の結果、指導の改善策、指導の成果についての説明責任を果たします。

## 学力定着度調査の結果 < 国語 >

### 1. 結果の概要

【国語】		21年度		
問題番号	設問項目	習熟基準	正答率	指導学年
1	漢字			
	(1) 漢字の読み			
	学年別漢字配当表の第五学年までの漢字を読むことができる。	80.0	54.3	3・4年
		90.0	100.0	3・4年
		95.0	100.0	3・4年
		80.0	87.1	3・4年
		65.0	85.7	3・4年
		80.0	90.0	3・4年
		75.0	95.7	3・4年
		90.0	87.1	3・4年
		70.0	92.9	3・4年
		70.0	61.4	3・4年
		漢字の読み平均	79.5%	85.4%
	漢字の読み 達成率	64.7%	81.4%	
	(2) 漢字の書き			
	学年別漢字配当表の第五学年までの漢字を書くことができる。	85.0	51.4	3・4年
		75.0	54.3	3・4年
		60.0	67.1	3・4年
		80.0	68.6	3・4年
		70.0	75.7	3・4年
		50.0	18.6	3・4年
		80.0	62.9	3・4年
		85.0	82.9	3・4年
		75.0	77.1	3・4年
		50.0	24.3	3・4年
		漢字の書き 平均	71.0%	58.3%
	漢字の書き 達成率	36.1%	28.6%	
2	言語事項			

文法に関する知識				
(1)	主語・述語の関係をとらえることができる。	60.0	35.7	1・2年
(2)	修飾・被修飾の関係をとらえることができる。	70.0	78.6	3・4年
(3)	接続語の働きをとらえることができる。	90.0	88.6	3・4年
文法に関する知識 平均		73.3%	67.6%	
文法に関する知識 達成率		48.5%	24.3%	
語句に関する知識				
(4)	ローマ字を理解し、読むことができる。	55.0	62.9	3・4年
(5)	類義語を使い分けられることができる。	90.0	95.7	3・4年
(6)	多義語の意味がわかる。	85.0	94.3	3・4年
(7)	熟語の構成がわかる。	75.0	70.0	3・4年
(8)	国語辞典の使い方がわかる。	60.0	80.0	3・4年
語句に関する知識 平均		73.0%	80.6%	
語句に関する知識 達成率		74.0%	77.1%	
3 文学的文章				
文学的な文章の読み取り				
(1)	叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。	90.0	85.7	3・4年
(2)	叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。	85.0	67.1	3・4年
(3)	叙述をもとに、場面の様子を読み取ることができる。	75.0	85.7	3・4年
(4)	叙述をもとに、登場人物の様子を読み取ることができる。	75.0	80.0	3・4年
文学的な文章の読み取り 平均		81.3%	79.6%	
文学的な文章の読み取り 達成率		49.6%	48.6%	
4 説明的文章				
説明的な文章の読み取り				
(1)	細かい点に注意して文章を読むことができる。	85.0	71.4	3・4年
(2)	細かい点に注意して文章を読むことができる。	80.0	54.3	3・4年
(3)	内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	75.0	70.0	3・4年
(4)	内容を大きくまとめながら文章を読むことができる。	85.0	87.1	3・4年
(5)	中心となる語や文をとらえて、段落の要点をとらえることができる。	65.0	62.9	3・4年
説明的な文章の読み取り 平均		78.0%	69.1%	
説明的な文章の読み取り 達成率		60.5%	51.4%	
5 作文				
	相手や目的に応じて、適切に書くことができる。	75.0	82.9	3・4年
	考えが明確になるように、段落相互の関係を考えることができる。	65.0	55.7	3・4年
	書く必要のある事柄を収集したり選択したりすることができる。	65.0	42.1	3・4年
		75.0	70.7	3・4年
作文 平均		70.0%	62.9%	
作文 達成率		49.1%	47.1%	
全体の達成率		51.1%	57.1%	
赤字は習熟基準を下回ったもの				

## 2. 結果の分析と解説

漢字について	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
漢字の読み	79.5	85.4
漢字の書き	71.0	58.3

・漢字の読みに関しては、習熟基準の平均が区全体の79.5%に対して本校は、85.4%と上回っています。これは当該学年までの読みの指導を徹底した結果と考えられます。

・漢字の書きについては、習熟基準の区全体の平均が71.0%に対して本校は、58.3%と下回っています。特に、習熟基準を著しく下回っている文字があり、個々の児童の学習内容の定着度に努力を要する状況を把握し、指導を重点化していく必要があると考えられます。

言語事項	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
文法に関する知識	73.3	67.6
語句に関する知識	73.0	80.6

・文法に関する知識では、習熟基準の平均が区全体の73.3%に対して本校は、67.6%と下回っています。特に主語・述語の関係をとらえる問題で誤答が多くありました。主語・述語の関係は毎年正答率が低く、課題となっています。主語と述語の対応についてとりたてて指導する時間を設け、知識としてしっかり定着させる工夫が必要です。

・語句に関する知識では、習熟基準の区全体の平均が73.0%に対して本校は、80.6%と大きく上回っています。大半の問題も習熟基準を十分に満たしており、文中の多義語・類義語など言葉への関心が高く、語句に関する指導を徹底した結果と考えられます。

読むこと	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
文学的な文章の読み取り	81.3	79.6

・文学的な文章の読み取りでは、習熟基準の区全体の平均が81.3%に対して本校は、79.6%と下回っています。叙述をもとに、場面や登場人物の様子を読み取る問題で4問中2問では習熟基準を上回っていますが、1問で習熟基準を大きく下回っています。このことから、本校の児童が文学的な文章を読むことを好んではいますが、場面の様子を叙述から読みとることが不十分であることが分かりました。登場人物の様子を読み取る指導の際にも、根拠となる語句を常に考えさせるだけでなく、語句と語句の関係など細かく読むことも取り入れていくことが必要です。

読むこと	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
説明的な文章の読み取り	78.0	69.1

・説明的な文章の読み取りでは、習熟基準の区全体の平均が78.0%に対して本校は、69.1%と下回っています。内容を大きくまとめ文章を読み取る問題で習熟基準を上回っていますが、問題等の5問中4問で習熟基準を下回っています。これは、細かい点に注意して段落ごとの要点をまとめたり、全体を要約したりする力が不足していると考えられます。

書くこと	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
作文	70.0	62.9

・作文では、習熟基準の区全体の平均が70.0%に対して本校は、62.9%と下回っています。相手や目的に応じて書くことは、習熟基準を上回っていますが、書く事柄を収集したり、選択したりして文章を作る事が十分ではありません。これは、説明文の読み取りと同様に、中心となる語や文をおさえて、段落の要点を書いたり、段落相互の関係を明確にして書いたりする力が不足していると考えられます。

### 3．結果から明らかとなった課題

#### (1) 子どもの課題(領域別)

##### 漢字

単元ごとのテストで子どもたちの学習した漢字の定着状況を把握し、繰り返し学習によって定着させるために、実態に合わせて振り返る時間を適宜設定していく必要があります。特に、漢字の書きを定着させるために、学んだ漢字を常によく書くように指導し、その漢字の成り立ちや使い方などについて辞書をひいて学ばせていく必要があります。その際に、単なる漢字そのものの反復的な練習だけでなく、既習の漢字を使った言葉や文章を書いたり、辞典等を使って熟語をしらべたりする場面を設定することが必要となります。

##### 言語事項

文章を読んだり、書いたりする時に、低学年から、主語・述語という言葉で説明し、文のつくりについて考えさせる必要があります。これについては様々な学習場面において計画的・継続的に指導をし、一文の構成を意識して短作文指導を行うことにより定着を図ることが大切です。実生活の中でも、主語・述語の関係や接続語を意識して使う活動を設定していく日常的な取り組みの必要があります。

##### 文章理解

全ての領域と深い関わりのある文章を読み取る力を育てることが課題です。その際、叙述に沿って根拠を明らかにし、想像力をはたらかせ行間への書き込み等を行い、しっかりと読み取らせることが必要となります。その際、一人一人の児童が言葉に着目し、考えたことや気づいたことをもとに書いたりまとめたりする学習を行い、友だちとの意見交換や異学年と交流するなど授業形態を工夫して互いに深め合う活動を取り入れていく必要があります。特に説明的文章においては、主語・述語の関係やキーワードを捉えたり、段落ごとの要点をとらえたりしながら丁寧に読む習慣をつけさせる必要があります。

##### 作文

読み取ったことをもとに、単元の終わりに書き換えをしたり、続きの物語を書いたり、読み手に書き手の意図が伝わるように筋道を立てて書くような指導を展開し発展させることが大切です。さらに、低学年から日記を書かせたり、テーマをしぼって単作文に取り組みせたりしながら、考えが明確になるように、文章の組み立てを考えたり、段落を意識して書いたりする必要があります。また、書く必要のある事柄を収集したり、選択したりする学習を展開していく必要があります。

#### (2) 学校側の課題(指導体制・指導方法・指導計画など)

##### 学び直したり、繰り返し学習したりする必要のある児童に、個別指導をする機会を設定する

すでに習った学習内容が定着していなかったり、学び直したりする必要のある子に対して、個別指導ができる体制を整えることです。

### 4．今後の改善・対策

#### <学校全体の改善・対策>

##### ステップアップ学習：5・6年

・個々の実態に合わせた教材を選び取り組む中で、個々のレベルアップを図ります。さらに指導計画を再検討し、講師を活用した5・6年生のステップアップ学習のうちの20時間を国語とし、5学年2学級を3つに、6学年3学級を4つに分け個に応じた指導を充実させます。

・起承転結を意識して文章を書かせたり、項目を整理したりして文章を作る習慣を身に付けさせるために、百マス作文等の指導をしていきます。

### 読書指導の充実

・図書館スタッフと協力して、児童の読書の幅を広げるため、図書館利用計画や読書指導計画を作成し発達段階に応じた系統的な指導をしていきます。そのために、図書担当教員が週2回スタッフとの打ち合わせの時間などを設定します。

・図書館スタッフによる読書指導・読み聞かせを学期に1回設定し、進んで読書する態度の基礎を育てます。

・各学年の発達段階に応じて、年間貸出目標冊数（1年：50冊 2年：45冊 3年：40冊 4年：35冊 5年：30冊 6年：25冊）を掲示し読書意欲を高めたり、各月の本の紹介掲示の充実を図ります。

・図書ボランティアによる読み聞かせの時間を学習単位と関連づけた読み物などにも興味をもって読めるように指導していきます。そのために、本校独自のリクエストカードを活用します。

・毎週水曜日（大まくぼタイム）に15分間の全校読書を設定し、「読書貯金カード」で児童の読書意欲を高めます。カードをもとに読書内容を確認し、個々の児童に適した本をアドバイスしていきます。

### 大まくぼタイム

・15分間の帯の時間を週2回設定します。品川区小中一貫教育要領をふまえ、「漢字ステージ100」を使い指導計画にそって学習を進め、「前学年までの漢字の定着」の時間、「当該学年の漢字の定着」の時間として位置づけます。

・漢字ステージの定着状況を把握し、実態に合わせ、年2回の「大間窪漢字検定」にむけて前学年・当該学年の漢字が定着するように指導を進めます。前半に漢字定着の時間として繰り返し練習を進め、後半にステージごとの習熟度テストを行います。

・漢字の書きの定着を図るために、ノート指導を全校で統一して行います。単に反復練習になることがないように音・訓や熟語、同音異義語等についても同時に指導を行います。教科書の新出漢字の指導では漢字ステージでの振り返りをする等学ばせ方を工夫して繰り返し学習を行い定着を図ります。

### 個別指導体制の確立

・特別に指導が必要な児童に対して、休み時間・放課後などを利用して補充的な指導を行い、基礎・基本の学力の定着を図ります。校長・副校長をはじめ、全教職員でサマースクールや春の勉強会できめ細かな指導を行います。

### <各学年の改善・対策>

#### 漢字の書きに関する指導

##### ・第1学年

初めて出会う漢字であり、象形文字や指示文字が多く含まれているので、漢字を絵や昔の漢字と一緒に提示するなどして、イメージと単語を表す漢字の意味を捉える（象形文字・指示文字・漢字の成り立ちから考える）ことができ、楽しく学習できるように指導を工夫します。

特に、教科書の教材文を音読して読み方を確認させる等の機会を継続的に設けて指導します。

##### ・第2学年

第1学年で学んだ漢字もふくめて、漢字と絵のかかるたなどで漢字に対する興味や関心を高められるように指導します。また、カードなどを使い漢字が表意文字であることを意識させ、漢字に対する興味・関心を高められるように指導します。

特に、既習漢字を書く活動の中で積極的に使えるように、1年生の漢字(80字)を漢字に触れる機会を増やして指導します。

・第3学年

漢字の書き方歌やたんじょう物語などを書かせて、へんやつくりなどの構成について知識をもたせることができるように、指導を工夫します。

特に、「へんとつくり」の単元では、漢字の構成について理解し、児童の語彙を一層ふやしていけるように重点的に指導します。

例 その部分は意味を表すことを理解する。形声文字  
 形声文字の作られ方を知る。(坂) <反・ハン(音)>+<土・つちへん(意味)>  
 同じ部分を取り去ると、部首になり、漢字の意味を表す

・第4学年

第3学年での学習をもとに、漢字の組み合わせカード、漢字パズルなどを使い、同じ部分をもった漢字(話・読・語)などを進んで見つけるよう指導します。

特に、「漢字辞典の使い方」の単元では、漢字辞典の使い方、漢字の部首や成り立ち、画数について重点的に指導します。

例 その部分は左側(偏)だけでなく上(冠)・下(脚)・右(傍)がある。  
 その部分は漢字が変形してできている。(木 林 左部分)  
 同じ音の漢字には、同じ形の部分がある

・第5学年

漢字による際には、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりするように、漢字ノートに熟語や文章を書くなど工夫させ指導します。また、国語辞典・漢字辞典の使い方に慣れ、自分で調べられるように各教室に配布し常に指導できるようにします。

特に、「漢字の成り立ち」の単元では、象形・指事・会意・形声の漢字の成り立ちを理解し、漢字の由来に関心を持って語彙を一層ふやしていけるように重点的に指導します。

・第6学年

今までの学習をもとに、漢字辞典や漢字クイズなどを作らせ、文や文章の中で使う習慣を身に付けるように繰り返し指導します。また、国語辞典・漢字辞典の使い方に慣れ、進んで調べられるように各教室に配布し常に指導できるようにします。

特に、「同じ訓をもつ漢字」の単元では、同訓異字語に興味を持ち、集めたり調べたりして、文脈を考えて進んで使えるように重点的に指導します。

説明的な文章の読み取りに関する指導

	具体的な指導について	重点 単元1	重点指導1	重点 単元2	重点指導2
第1学年	時間的な順序を表す言葉を抜き出したり、事柄の順序などを考えながら文章を組み立てたりする(並べ替え)活動を丁寧に指導します。	ち や ん  ど う ぶ つ の 赤	動物の赤ちゃんと親の写真を提示したり、穴埋め式のカードに文章を書き出したりさせる。	じ ど う 車 く ら べ	3種類の自動車について、働きと作りの関係などを考えながら内容の大体を読みとらせる。

第2学年	時間的な順序を表す言葉を抜き出したり、事柄の順序などを考えながら文章を組み立てたりする（並べ替え）活動を丁寧に指導します。	ちえ たんぼぼの	動作化したり、クイズにまとめたりする活動を取り入れる。	生きものたちの海の	海の生き物たちのくらしに興味を持ち、大事なところに気をつけて読みとらせる。
第3学年	目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えられるように、形式段落を意味段落に分けたり小見出しをつけたり、要点をまとめたりする学習を段階的に行います。	ありの行列	小見出しをつけたり、問いと答えを色分けしたカードに書かせたりして視点を明らかにさせる。	豆すがたをかえる大	では段落相互の関係をとりえ、内容を正確に読み取らせ、身の回りの食べ物の秘密について本で調べまとめさせる。
第4学年	目的に応じて中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えられるように、形式段落を意味段落に分けたり小見出しをつけたり、要点をまとめたりする学習を継続的に行います。	「かむ」ことの力	問題提示・説明・まとめがわかるワークプリントを活用しまとめさせる。	伝える アップとルーズで	段落のつながりをとらえ、写真との対応に注意しながら、二つの伝え方の特徴を読み取らせる。
第5学年	目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などを読み分けたりする指導を行います	千年の釘にいどむ	事実や筆者の考え、職人の思いを色分けしたカードに抜き出して、まとめさせる。	マルハナバチ サクラソウとトラ	段落ごとに注目して、段落の要点をとらえたり、内容を的確に把握したりしながら筆者の考えをとらえ、自分の考えを明らかにさせる。
第6学年	目的に応じて文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などを読み分けたりする指導を重点的に行います	で築く 平和のとり	ワークシートを活用し各段落に書かれていることを事例ごとにまとめさせる。	がりの中に 生き物はつな	書かれている事実や筆者の考えを正確に読み取り、それに対する自分の考えをまとめて書かせる。

### 作文に関する指導

国語や各教科の中で、学年に応じて作文の習得目標を定め、重点的に指導を行います。

#### ・第1学年及び第2学年

助詞（て・に・を・は・へ など）を正しく使う。句読点を正しく使う。「 」を使う。  
絵に言葉を入れる。簡単な手紙を書く。観察した事を文に表す。

#### ・第3学年及び第4学年

常体と敬体を書き分ける。句読点を適切に使う。必要な個所で改行する。  
葉書や封筒を用いて手紙を書く。調べてまとめる。記録文、新聞を書く。

#### ・第5学年及び第6学年

文章全体の組立てを考える。考えが中心の文と事実が中心の文とに書き分ける。表現の効果を考えて書く。

礼状や依頼状などの手紙を書く。自らの課題について調べたこと、経験したことをまとめた文章にして報告する。

上記の取り組みにより、本校前年度より「漢字の読み」について正答率の平均を3%、「漢字の書き」について正答率の平均を5%「文章理解」について正答率の平均を5%「作文」について正答率の平均を5%あげます。

## 5. 学力の検証方法

### 学力調査を実施します。(CRT学力テスト)

実施学年：2年生から6年生

実施時期：4月

実施目的：前年度の学年の到達度調査として、当該学年の定着度を調査し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

### 「大間窪漢字検定」(漢字ステージ)を実施します。

実施学年：全学年

実施時期：4月

実施時期：(1回目)9月 (2回目)1月

実施目的：当該学年の前・後期の定着度調査を実施し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：9割の正答率を合格としそこに到達するまで習熟させる。

### 「漢字ステージチャレンジテスト」を実施します。

実施学年：全学年

実施時期：毎週1回

実施目的：既習漢字の定着度調査を実施し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：9割の正答率を目指す。

### 「単元テスト」を実施します。

実施学年：全学年

実施時期：各単元終了時

実施目的：単元ごとのテストの定着度調査を実施し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

### 本校独自の重点単元を中心とした「学期末テスト」を実施します。

実施学年：全学年

実施時期：各学期終了時

実施目的：重点単元等のテストの定着度調査を実施し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

# 学力定着度調査の結果 < 算 数 >

## 1. 結果の概要

【算 数】		21年度		
問題番号	設問項目	習熟基準	正答率	指導学年
数と式の意味と計算				
1 (1)	(1けた) + (1けた) = (2けた)の加法の計算ができる。	90%	100%	1年
(2)	(十何) - (1けた) = (1けた)の減法の計算ができる。	90%	100%	1年
(3)	2けた + 2けた(くり上がり2回)の加法の筆算ができる。	90%	92.9%	2年
(4)	3けた - 2けた(くり下がり2回)の減法の筆算ができる。	90%	88.6%	2年
(5)	同分母の真分数の加法の計算ができる。	80%	90.0%	4年
(6)	同分母の真分数の減法の計算ができる。	80%	82.9%	4年
2 (1)	7の段の九九ができる。	90%	97.1%	2年
(2)	2けた ÷ 1けた(余りなし)の除法の計算ができる。	90%	100%	3年
(3)	2けた ÷ 1けた(余りあり)の除法の計算ができる。	90%	95.7%	3年
(4)	2けた × 2けたの乗法の筆算ができる。	70%	87.1%	3年
(5)	3けた ÷ 2けた(余りなし)の除法の筆算ができる。	70%	87.1%	4年
3 (1)	小数 + 小数の加法の計算ができる。	90%	92.9%	3年
(2)	小数 - 小数の減法の計算ができる。	80%	90.0%	3年
(3)	整数 - 小数の減法の計算ができる。	80%	85.7%	3年
(4)	小数(小数第二位) + 小数(小数第三位)の加法の計算ができる。	70%	65.7%	4年
(5)	小数(小数第一位) × 整数の乗法の筆算ができる。	70%	80.0%	4年
(6)	小数(小数第一位) ÷ 整数の除法の筆算ができる。	70%	84.3%	4年
数と式の意味と計算 平均		81%	89.4%	
数と式の意味と計算 達成率		76.5%	77.1%	
数量関係				
4 (1)	四則混合の式の計算ができる。	70%	78.6%	4年
(2)	( )を含む四則混合の式の計算ができる。	70%	92.9%	4年
(3)	計算のきまり(分配法則)を理解し、四則混合の式の計算に利用できる。	60%	77.1%	4年
数量関係 平均		67%	82.9%	
数量関係 達成率		89.0%	87.1%	
数と式の意味と計算				
5	減法を適用して、文章題を解くことができる。	90%	88.6%	1年
6	十進位取り記数法の考え方を理解し、与えられた数字で最も小さい数を作ることができる。	80%	92.9%	2年
7	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	80%	85.7%	4年
8	千の位までの概数の表し方を理解している。	70%	82.9%	4年
9	3けた ÷ 1けた(余りなし)の除法を適用して、倍の文章問題を解くことができる。	70%	65.7%	4年
10	数直線上に示された小数をよみとることができる。	90%	90.0%	3年
11	1/1000の位までの小数の表し方を理解している。	80%	82.9%	4年
12	帯分数, 仮分数, 真分数, 整数を大小順に並べることができる。	60%	54.3%	3年
数と式の意味と計算 平均		77%	80.3%	
数と式の意味と計算 達成率		76.5%	77.1%	

量と測定					
13	(1)	ある時刻から一定時間を経過した時刻を求めることができる。	90%	85.7%	3年
	(2)	2つの時刻を比較して、その間の時間を求めることができる。	70%	57.1%	3年
14	(1)	1 = 1000m を理解し、身近にある容器の容量を推察して、適切な単位を用いることができる。	70%	84.3%	3年
15		ひょう量2kgのはかりの目盛りを正確によみとることができる。	70%	78.6%	3年
量と測定 平均			75%	76.4%	
量と測定 達成率			83.0%	77.1%	
図形と計量					
14	(2)	km, m, cm, mm の長さの単位について理解し、状況に応じて適切な単位を用いることができる。	80%	97.1%	3年
16		点Aを中心に25°の角の作図ができる。	70%	85.7%	4年
17		正方形の中の一部(長方形)がぬけた図形と面積を求める式が与えられているとき、その式にあった求め方を示す図を選択することができる。	70%	75.7%	4年
18	(1)	長方形の特徴を理解し、その特徴にあてはまらない図形を選ぶことができる。	80%	95.7%	2年
	(2)	直角三角形の特徴を理解し、様々な図形から弁別できる。	70%	61.4%	2年
19		箱を構成するのに必要な辺や頂点の数がわかる。	70%	67.1%	3年
20	(1)	二等辺三角形の定義を理解している。	70%	91.4%	3年
	(2)	円の半径について理解している。	80%	91.4%	4年
図形と計量 平均			73%	83.1%	
図形と計量 達成率			88.8%	81.4%	
資料分析					
21		表の値を棒グラフに表すことができる。	90%	95.7%	3年
22		二次元表のよみ方・かき方を理解している。	80%	92.9%	4年
23	(1)	折れ線グラフの変化について理解し、グラフをよみとることができる。	60%	77.1%	4年
	(2)	2種類のグラフをよみとり、問題を解決することができる。	50%	81.4%	4年
資料分析 平均			70%	86.7%	
資料分析 達成率			85.3%	82.9%	
赤字は習熟基準を下回ったもの					

## 2. 結果の分析と解説

数と式の意味と計算	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
【計算】	81.8	89.4
【数と式の意味】	77.5	80.3

### 【計算】

全体として習熟基準を上回る正答率であり、ほぼねらいを達成できたと考えられます。100%達成できた問題も3問あり、確実に身に付けようと努力した結果と考えられます。しかし、2問達しない問題がありました。それは、「1(4)3けた-2けた(繰り下がり2回)の減法の筆算」と、「3(4)小数(小数第2位)+小数(小数第3位)の加法の計算」です。

整数の減法(筆算)は、繰り返し行い身に付けてきましたが、そのときの誤答では下から上をひく、10からひく計算を間違える、1繰り下げたことを忘れそのままひく、というものでした。本校では、計算の途中を書かせる指導をしており、その都度～のどこで間違えたのかを指摘し改善してきましたが、まだ不十分であったと考え、確実に直すようにし、いつでも正しく計算できるようにする必要があります。

また、小数の加法(筆算)は、70%の習熟基準に対して65.7%と下回りました。これは、位をそろえて計算しなかったからであると考えられます。整数のときは、右端の一の位がそろっていたが、小数は下位単位があるため、必ずしも右端がそろってはいません。小数のしくみや位について十分に指導し、その上で計算のしかたを考えて筆算形式を身に付けるように指導する必要があります。また、一度身に付いても繰り返し指導することが大切です。

### 【数と式の意味】

全体としては、習熟基準を上回っています。特に、「6 十進位取り記数法の考え方から、最も小さい数を作る問題」と、「8 千の位までの概数の表し方」では、習熟基準を10%以上、上回っています。

しかし、習熟基準を下回った問題もあります。「5 減法を適用した文章問題」「9 3けた÷1けた(余りなし)の除法を適用した、倍の文章問題」「12 帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順にならべる問題」は、習熟基準に達することができませんでした。

このうち「5」と「9」は、文章問題です。文章問題の解き方は 問題を読み、必要な数や演算決定に使う言葉を で囲んだり、線をひいたりする、 問題の構造を絵や図を用いてとらえる、 確実に立式する、という流れが大切です。低学年のときから習慣づけていくようにしたいと考えます。

また、「12」は、分数の大小を比べる問題です。分数は、整数・小数と異なり同じ大きさをいろいろな分数で表すことができます。数直線を用いて仮分数と帯分数と互いに書き換えたり、整数との関係を明らかにしたりしながら、正しく大きさを比べることができるよう指導する必要があると考えられます。

数量関係	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
	66.7	82.9

全ての問題が習熟基準を上回っています。特に、「4(2)( )を含む四則混合の式の計算)は、70%の習熟基準に対して92.9%の正答率であり、大変よく身に付いているととらえることができます。四則混合問題や( )を使った式は、四則計算が完成する4年生の時期学習する内容です。たし算、ひき算、かけ算、わり算の計算の仕方がしっかりと理解できた上で、 計算のきまりにしたがって計算の順序を考える、 途中の式を省かずに、順番に計算する のことが大切です。この学

習は、複合図形の面積や中学での「数と計算」領域でも使うので、いつでも答えを求めることができるように指導する必要があると考えられます。

量と測定	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
	75.0	76.4

全体としては、習熟基準を上回っています。特に、「14 1 = 1000 m から容量の適切な単位を用いる問題」では、習熟基準を 10% を上回る正答率です。

しかし、「13(1)ある時刻から一定時間を経過した時刻を求める問題」と「13(2)2つの時刻を比較してその間の時間を求める問題」の正答率が、習熟基準を下回っています。

いずれも「時くと時間」単元の問題です。時刻を求めるには 分かっている時刻を確認する、何分後(前)なのかを考えて、時計の針を動かす、のですが、その際大切なのは、時間の単位を理解することです。1時間が60分であることをしっかりととらえて、求めるように指導する必要があります。また、時間を求める問題では、使う時刻や時間をしっかり読む、合わせて「何分なのか」「何時間何分なのか」を間違えずに答える、このことに注意して学習を進めることが大切です。また、3年生までの学習範囲ではありますが、一度理解しても繰り返し行わないと忘れてしまうことがあります。折に触れて教室にある時計を用いて普段から「分後(前)の時刻」や「時刻と時刻の間の時間」を考えさせることが大切です。

図形と計量	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
	73.8	83.1

全体として習熟基準を 10%以上上回る正答率です。特に、「14(2)長さの単位を適切に使う問題」「16 角の作図」「18(1)長方形の特徴を理解する問題」「20(1)二等辺三角形の定義」「20(2)円の半径」については、習熟基準を 15%~20%上回る正答率です。

しかし、「18(2)直角三角形の弁別」「19 はこの辺や頂点の数」の問題では、習熟基準を下回っています。直角三角形かどうかを調べるには、三角定規を使いますが、子どもたちは慣れてくると「直感」で答えを出そうとします。その見通しを大切にしつつ、実際に三角定規と重ね合わせて確認するように指導することが必要です。特に図形がいろいろの向きに置かれていても、調べる習慣を付けたいと考えます。

また、箱の形では、実物を用いたり作ったりしながら十分に操作的活動を行い、繰り返し身に付けさせるようにする必要があります。また、構成要素である〔頂点、辺、角の大きさ〕などは、図形を観察するとき意識させて学習することが大切です。

資料の分析	習熟基準の平均 (%)	本校の正答率平均 (%)
	70.0	86.7

全ての問題が習熟基準を上回っています。特に、「23(1)折れ線グラフの変化」と「23(2)2種類のグラフをよみとる問題」では、17%~30%上回る正答率です。

棒グラフは数の大小を「棒の高さ」で判断するもので、折れ線グラフは変化のようすを「線の傾き」でとらえるものです。表と比べながらこれらのグラフの見やすさに気付くようにし、縦軸や横軸の目盛りの読み取り方やかき方をしっかり学習し、繰り返し学んだからであると考えられます。今後もこれを継続して指導していきたいと考えます。

### 3. 結果から明らかとなった課題

#### (1) 子どもの課題(領域別)

##### 数と式の意味と計算

###### 問題内容を正しく読み取り、立式をする。

本校では、学習の基礎・基本として問題を読み、式を立てるのに必要な数値や言葉にしるしをつけさせています。このことにより、数値の単位や式につながる言葉に注目し、問題の構造をつかむ手がかりにすることができるからです。文章問題が苦手な子どもも、きまったしるしは必ずつけることができます。

つぎに絵や図(テープ図や数直線)などをかいて問題の構造をよく理解した上で、式を立てるようにすることが大切です。これがかければ誰でも正しく式を立てることができると励まし、書かせています。特に、「倍概念」はとらえにくいので、丁寧に指導することが課題です。倍概念は、3年生から学習しますが、テープ図を使って2倍、3倍と理解できるようにすることが課題です。

###### 十進位取り記数法を十分に理解し、計算が確実にできるようにする。

整数・小数のしくみは、十進位取り記数法をしっかり理解することが必要です。同じ2でも、それがどの位に入るかにより、20なのか、200なのか、0.2なのか、数の大きさが決まることや、たし算やひき算は、同じ位同士行うことを指導するなど、十進位取り記数法について整数だけでなく小数も含めて理解できるようにすることが課題です。

また、計算においては、その途中を必ず書かせるようにし、繰り上がりの1や繰り下がりの10など途中をもらさず書くようにすることが課題です。これを行うことで、見直したりどこで間違えたのか分かるようにしたりできます。その上で、繰り返し練習させることが課題です。特に繰り上がりや繰り下がり連続して行われる場合は、たしかめの計算をするなど注意が必要です。

###### 数感覚を養うために、答えの見当をつける。

計算するとき、およそいくつ位になるか見当をつけることが大切です。そして、その数と実際に計算して出た答えを比べさせます。見積もりは誤答を少なくすると同時に、数に対する感覚を養うので、日頃から行うようにすることが必要です。

##### 数量関係

###### 計算の決まりを理解し、計算に活用できるようにする。

四則計算が混じった問題では、問題場面を提示し、式を立てさせる必要や、1つの式にまとめるよさに気付くように指導することが課題です。その上で、かけ算やわり算、( )を優先して計算する決まりはもちろん、分配法則や結合法則のよさが分かる式を提示してよく理解させることが課題です。そして、いつでも計算の手順は同じであることを身に付けさせるために、繰り返し練習することが必要です。

##### 量と測定

###### 時間の求め方が確実に身に付くようにする。

ある時刻からある時間を経た(経る前)の時刻を求める問題がいつでも解けるようにするために、時計に親しむ、時刻と時間の違いを明らかにする、基準となる時間の単位やその関係を理解する、このことを通して身に付けるようにすることが課題です。ではまず、算数的活動を通して、低学年のうちから時計を読み、日常化を図ることが大切です。また、では、時刻と時刻の間が時間であることを知らせ、で1時間=60分、1分=60秒という基準となる時間の単位をしっかり理解させるようにすることが大切です。その上で、問題文をよく読み、時刻や時間の求め方を考え、しっかり身に付けさせるようにしたいと考えます。

###### 算数的活動を通して量感を養い、目盛りを正しく読めるようにする。

2年生で、「長さ」の単元で長さをいろいろ比べ、cmやmの普遍単位を理解します。これをもとに、具体的な容量や重さを比べたり測ったりしながら、gの普遍的な単位の必要性に気付いていきます。

そのために実物のますや計量計を使い、算数的活動を通して正確に測る方法を身に付けさせたいと考えます。また、手にとって見たときにおよそ何か、何kgが見当をつけることができるようにします。そして、ひと目盛りの数量から確実に目盛りを読むことができるようにすることが課題です。

## 図形と計量

### 具体物を用いて直角三角形や箱の形を理解させるようにする。

図形では、構成要素である「頂点」「辺」「面」などをもとに特徴をとらえることが大切です。

直角三角形は、1つの角が直角であるという特徴があります。これを確実にとらえるには、三角定規を持ち直角があるかどうかをしっかりと調べることが課題です。常に直角をとらえやすく置いてあるとは限りません。また、子どもは「直感」で直角三角形かどうかを判断しがちです。そこで、どのような向きでも三角定規の角を使って直角があるかどうか確かめさせるようにすることが課題です。

また、箱は立体のため全体像が見えにくいので、積み木を観察したり、箱を開いたり組み立てたりする算数的活動を通して面や辺の数や形を理解させることが大切です。そして、棒や玉を組み合わせて立体を作り、頂点や辺がしっかりととらえられるようにすることが課題です。

## 資料の分析

### 表やグラフの読み方やかき方を身に付ける。

今回習熟基準に達していたが、次のことを課題として取り組みたいと考えます。

まず、ある事象をとらえるために有効な表やグラフについて、どんなことを表そうとしているのか考えたり、それを発表させたりして、正しく読むことができるようにすることが必要です。そして、グラフには縦軸や横軸があるので数値によって目盛りを打ち、間違いなく棒グラフや折れ線グラフに表すことができるようにさせたいと考えます。また、いろいろな事象をとらえ、表やグラフに表すようにさせます。これらの学習により、表やグラフの読み方やかき方を身に付けさせることが課題です。

## (2) 学校側の課題(領域別)

### 習熟度別少人数学習による指導計画・指導体制・指導方法を行う。

学習内容を効果的にしっかりと身に付けるためには、1年間を見通した指導計画を立て、少人数指導を中心に、担任、指導助手を実態に応じて配置する指導体制をとり、学習内容に即した指導方法を行うことが課題です。年度末に評価規準を含めた年間計画を立て、また、事前にプレテストを行い習熟に応じた体制をしっかりと作り、必要な教材は少人数指導と担任が協力して準備し、効果的な学習を進めていくことが必要です。

## 4. 今後の改善・対策

### <学校全体の改善・対策>

#### 少人数、指導助手、保護者ボランティアの活用

本年度も少人数加配を受け、第3学年から第6学年まで少人数・習熟度別学習を行います。(単元によっては均等割り) レディネステストをもとに、グループを作る、できるだけ具体的な教材を用意し、分かるまで指導する、つまずきやすい単元や学習内容を指導助手を含めて複数の担当者でしっかり指導したり、実態に応じて発展的な学習に取り組んだりします。そのために指導助手を活用し、個に応じた指導を行います。

本校はこれまで第2学年の「かけ算九九」の習熟において、全員が九九を暗誦できるよう、保護者ボランティアをお願いしています。この取り組みにより、大勢の児童が一人ずつ何度も九九の練習ができます。本年度もこれを継続したいと考えます。

#### 大間窪小学校の基礎・基本の徹底

本校では、これまで算数の学習における基礎・基本として、全校で統一したノート指導を行っています。「書くこと」は「考えること」です。ですからどの積み重ねは非常に大事になってきます。担当者が替わってもノート指導が同じであることが望ましいのです。その中で 日付、単元名を書く 計算の途中を省略せずに書く、ということがあります。特に は、途中で間違えないようにするためや確かめのためだけではありません。子どもがどのようにして考えたかを記録し、またどこで間違えたかが分かるようにするためです。このことは、指導者にとっても必要なことです。計算のどこで間違えたのか、子どもに指摘することができます。このことは小中一貫の算数・数学の指導としても行い、9年生まで行っていきます。

### 身の周りの事象を数を用いて表現

アンケート調査によると、算数は授業のときのもので、生活に生かされていないことが分かりました。身の周りの事象と算数の学習があまりつながっていないようです。そこで、学年の実態に合わせ、「何あるでしょう。(かさあてクイズ：2年)」「1kgのものは、どれですか。(重さあてクイズ：3年)」など、色々な事象を数を用いて表すことができるようにし、算数を学ぶことが楽しく感じられるようにします。

### <ステップアップ学習> <大間窪タイム>の活用

学習内容の基礎・基本を徹底するために、第5・第6学年では<ステップアップ学習>の40時間のうちの半分、20時間を算数の学習とし、実態に応じた習熟度別の学習を行います。2学期からは、全教員で指導にあたります。ここではすでに学んだことを繰り返し行い、十分に内容を見に付けるようにします。

また、朝や昼に行う15分間の<大間窪タイム>のうち、週に2回は算数の学習とし、今学習している単元の習熟やこれまでに学習した内容の振り返りを行い、確実に身に付くようにします。

### 家庭学習の習慣化

その日に学習したことを振り返り、自分から学習する習慣を付けるため、保護者と連携して家庭学習を行います。『20分×学年数』を原則とし、その中に算数の学習を含めるようにします。

### 春の学習会・サマースクールの開催

「春の学習会」は新学期の家庭訪問に合わせ、午後1時30分から3時まで、個別指導が必要な児童を算数少人数担当を中心に、専科教員と共に指導します。

また、「サマースクール」は全校児童を対象とし、夏休みのプールが行われる日に合わせて5日間、学年ごとに1時間ずつ学習します。課題は学年で用意し、指導は全教員で行っています。その時間内で評価し、達成感がえられるようにします。

### <各学年の改善・対策>

#### 第1学年

友達の考えを聞いて、自分とどこが同じか、絵やブロックを見て分かるようにします。具体物の操作を通して、いろいろな物の数や大きさに「いくつあるんだろう」「どちらが大きいかな」と、興味・関心をもつようにさせ、そのことが楽しいと感じられるようにしたいと考えます。また、あといくつで10になるのか、《10のまとまり》を意識させ、2年生以降のたし算やひき算の計算につなげられるように指導していきます。また、計算指導では、算数ブロックを使ったり動作化をしたりして、十分身に付けさせます。このように1年生では、「繰り上がりのあるたし算」と「繰り下がりのあるひき算」を重点単元とし、確実に習熟できるようにします。

時計では、時刻を「何時何分」と、しっかりと読めるように日ごろから取り組みます。

## 第2学年

自分の考えを発表し、友達と比べてどこが違うのか、図やブロックを使つての説明できるようにします。

2、3位数同士のたし算やひき算では、繰り上がりや繰り下がりの計算の途中を筆算においてしっかりと書き、どの児童も正しく答えが求められるようにしていきます。また、アレイ図( を使った図)を示すことにより位を意識させ、百の位と千の位では同じ数字でも意味が違うことをしっかり理解させるようにします。たし算とひき算は、第2学年で完成するので繰り返し練習するようにしたいです。

かけ算では、今後の学習を考え計算の意味を具体物や図を通して理解させます。また、保護者ボランティアを活用して、かけ算九九をしっかりと暗誦できるように指導します。

2年生では、整数の加法・減法が完成するので、「たし算・ひき算の筆算」と3年生以降の学習に欠くことのできない「かけ算九九」の習熟を重点単元とし、確実に身に付けるようにします。

なお数の相対的な見方も今後の学習に必要なので、10や100のまとまりの図により、300を100が3つと見たり、10が30あると考えたりなど、いろいろな見方・考え方ができるようにさせ、計算につなげることができるようになります。

「時こくと時間」「かさ」の単元では、時計の模型やますを使って時刻や時間、かさを求められるようにし、日常化をはかります。

## 第3学年

これまで学習したことをもとに、自分で考えたことをノートにかいたり発表したりし、友達の考えを使って答えを求められるようにします。

2年で学習したかけ算をもとに2、3位数のかけ算の筆算を正しく学習します。途中の計算を書き入れ、かけ算の繰り上がりとたし算の繰り上がりを区別しながら小さく書き、正しく計算できるようにします。また、わり算の意味「等分除」と「包含除」の2つをとらえ、計算では、答えだけでなく九九を使って検算をノートに書き、正しく身に付くようにします。

3年生では、「かけ算の筆算」を重点単元とします。整数のかけ算は、3年生で完成し、小数の計算にも活用されるので、しっかり習熟することが大切です。

「倍」については、前学年より学習していますが、具体物だけでなく、絵やテープ図を用いて「2倍」「3倍」が分かるようにしていきます。

「小数」「分数」では、はしたを表す意味を理解し、大きさや表し方を図や数直線を使って十分につかめるようにします。

「重さ」の単元は、どちらが重いか予想し、はかりの実物を使って実際に量るようにし、算数的活動を行うだけでなく、数直線を用いて目盛りの読み方がしっかり理解できるようにします。

「棒グラフ」の単元では、大きさを高さで表すことよさに気付き、実際に表からグラフをかいたり、グラフから表を作ったりできるように一人一人にワークシートを与えます。特に、1目盛りがいくつを表すのか、表をもとに考えさせ、正しく読むように指導します。

## 第4学年

これまで学習したことをもとに、図や式、言葉を用いて自分で考えるだけでなく、簡単で分かりやすくいつでも使える、よりよい求め方が見付けられるようにします。

わり算では、3年で学習したことをもとに被除数や除数の数範囲を広げ、被除数が3位数の場合のわり算でも、仮の商を立てて正しく計算できるよう、個に応じ指導します。また、一方の数量が他方の数量の「何倍」になるかは、前学年同様テープ図などを使い、基準量と比較量を判断して繰り返し学習するようにし、小数や分数の学習につなげられるようにします。

4年生では、この「わり算の筆算」を重点単元とし、しっかりと学習します。

「小数」の単元では、小数のしくみを理解させ正しい筆算ができるようにし、たし算やひき算の計算を習熟するようにします。

「四則混合計算」では、計算の順序を考え、いつでも答えが求められるように繰り返し練習します。

「面積」の単元では、複雑な形でも正方形や長方形に区切って計算で求めることができるようにします。そして、多様な考え方が身に付くように友達に自分の求め方を説明したり、式から求め方が分かるようにしたりしていきます。

「平行・垂直と四角形」では、直線の交わり方や並び方から平行と垂直のいみと見つけ方、かき方を学び、平行四辺形やひし形の定義や特徴をまとめる。「立方体と直方体」では、「頂点」「辺」「面」などの構成要素から特徴をとらえ、実物を通して「見取り図」や「展開図」がしっかりとかけるようにする。

## 第5学年

問題を解決する中で、なぜそう言えるのか、これまで学習した図（アレイ図や数直線、面積図を含む）や式（言葉の式）を使って、根拠をもって説明していくようにします。このことは、数学的な考え方を育てると共に、7年生以降の学習にもつながるからです。

「小数×小数」や「小数÷小数」の問題では、乗数や除数の数範囲が広がったために、「×いくつ分」「÷何等分」の考えが使えなくなります。そこで倍の考えや数直線を使って数値の関係をつかみ、問題式の意味をしっかりと理解できるようにして正しい式を立てられるようにします。そして、かけ算では、「10倍したら、答えも10倍になる」、わり算では、「わられる数とわる数を10倍しても、答えは変わらない」という計算の決まりをもとに、確実に計算ができるようにしていきます。特に、「1mあたりの重さ」などは、習熟が難しいので、繰り返し学ぶことが必要です。

「分数の計算」において、同値分数の考えや面積図を用いながら異分母分数のたし算やひき算が正しくできるようにします。通分や約分がスムーズにできるために、倍数や約数についても数直線などをもとにしっかりと理解させます。

5年生では、「小数の計算」と「（異分母）分数のたし算・ひき算」を重点単元とします。小数のかけ算やわり算は、5年で完成します。前述したように数直線を使った立式と、計算が確実にできるようにします。また、分数のたし算・ひき算は、分数の性質をしっかりと理解した上で、習熟します。

「図形の面積」では、これまで学習した単位面積や長方形や正方形に置き換えて、三角形や平行四辺形、台形やひし形の面積の求め方を考え、公式をもとに計算で確実に求められるようにします。

「割合」では、基準量・比較量・割合の関係を数直線によって理解させ、式に表すことができるように指導すると共に、割合を%で表し、グラフをかいいたり読んだりできるようにします。このことは、他の教科にもつながる学習なので、生活の中で見つけ、親しんで生きます。

ステップアップ学習を活用し、プリントで児童の習熟に応じて学び直しや発展的な学習に取り組めるようにします。

## 第6学年

5年同様、算数の学習の中で、なぜそう言えるのか、これまで学習した図（アレイ図や数直線、面積図を含む）や表、式（言葉の式）などを使って、根拠をもって説明していくようにします。

「分数のかけ算・わり算」では、面積図や数直線を使って式の意味や計算の仕方を理解させ、正しく計算できるようにします。特に「1mあたりのかさ」は、立式が難しいので、繰り返し学習することが大切です。

6年生では、文章題を含めたこの「分数のかけ算・わり算」を重点単元とします。数直線を使って式をたて、確実に計算できるようにします。

「場合の数」では、身近な組み合わせを提示し、落ちなく、分かりやすい求め方を考えるようにします。また、生活の中で使うことで一層理解できるようにします。

「線対称・点对称」では、美しい図形には、決まりがあることに気付かせ、対象の軸などを通して、実際に図形をかくようにしたいと考えます。

「比例」では、伴って変わる2つの量が「比例するかどうか」を表にかき、「一方が2倍、3倍になると、もう一方も2倍、3倍になる」かどうか判断できるようにします。また、ノートなどに目盛りを正しく打ち、グラフに表したり、その内容について理解できるようにしたりします。「反比例」では、

具体的な場面をもとに考えさせるようにし、比例で学習したことをもとに、表をたてや横に見て特徴をとらえるようにします。そのなかで、決まりを式やグラフで表したりします。この単元は、7年生以降の学習につながる大切な内容なので、中学校との相互乗り入れを考えています。小学校での比例の授業の様子を見ていただいたり、実際に少人数学習指導に加わってもらったりして、しっかりと身に付けるようにします。

ステップアップ学習を活用し、プリントで児童の習熟に応じて学び直しや発展的な学習に取り組めるようにします。

上記の取り組みにより、すべての項目において区の習熟基準を超えます。さらに、本校前年度までの実績をもとに「数と式の意味と計算」「量と測定」「図形と計量」「数量関係」「資料の分析」について正答率の平均を2%あげます。

## 5. 学力の検証方法

### 小学校中学校教員による習熟度別少人数学習

実施学年：6年生・7年生「比例、反比例」

実施時期：5月、11月

実施目的：小学校中学校教員で個に応じた指導を展開し、つまづきを解消する。

### 学力調査を実施します。(CRT学力テスト)

実施学年：全学年

実施時期：4月

実施目的：前年度の学年の到達度調査として、当該学年の定着度を調査し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

### 「単元テスト」を実施します。

実施学年：全学年

実施時期：各単元終了時

実施目的：単元ごとのテストの定着度調査を実施し、成果と課題を洗い出す。今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

### 本校独自の重点単元を中心とした「学期末テスト」を実施します。

作成担当：少人数算数担当

実施学年：全学年

実施時期：各学期終了時

実施目的：重点単元を中心とした内容が十分理解できたかどうか評価し、今後の指導に生かす。

到達目標：8割の正答率を目指す。

### 各調査結果は、学校HP・学校便り・学年便り・保護者会・個人面談などでお知らせします。

各調査結果の内、全校の傾向については学校HP・学校便り、学年の傾向については学年便りや保護者会でお知らせします。改善策などについてもお知らせします。

なお、児童一人一人の結果については、個人面談や通知表などで個別にお知らせします。